

2. 早期中苗移植栽培耕種基準 (収獲時期早進化技術)

項目	要点	実施内容																												
1. 品 種		南国そだち、よさ恋美人、コシヒカリを使用する。																												
2. 播種期		平坦部早期栽培地帯での栽培とする。播種期は2月下旬～3月上旬とする。																												
3. 育 苗 (1) 目標標準苗	健苗育成が基本である	<table border="1"> <thead> <tr> <th>草 丈</th> <th>葉 数</th> <th>第1葉鞘長</th> <th>育 苗 日 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15cm</td> <td>3.5～4.0葉</td> <td>2～3cm</td> <td>35日</td> </tr> </tbody> </table>	草 丈	葉 数	第1葉鞘長	育 苗 日 数	15cm	3.5～4.0葉	2～3cm	35日																				
草 丈	葉 数	第1葉鞘長	育 苗 日 数																											
15cm	3.5～4.0葉	2～3cm	35日																											
(2) 必要苗箱数		<table border="1"> <thead> <tr> <th>一株植付本数</th> <th>栽植密度 条間×株間</th> <th>整苗率</th> <th>籾 千粒重</th> <th>乾籾 播種量</th> <th>10a当たり 必要苗箱数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">3本/株</td> <td>30×16cm</td> <td>80%</td> <td>25g</td> <td>100g/箱</td> <td>20箱</td> </tr> <tr> <td>30×18cm</td> <td>80%</td> <td>25g</td> <td>100g/箱</td> <td>18箱</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4本/株</td> <td>30×16cm</td> <td>80%</td> <td>25g</td> <td>100g/箱</td> <td>27箱</td> </tr> <tr> <td>30×18cm</td> <td>80%</td> <td>25g</td> <td>100g/箱</td> <td>24箱</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 予備の必要苗箱は含んでいない。</p>	一株植付本数	栽植密度 条間×株間	整苗率	籾 千粒重	乾籾 播種量	10a当たり 必要苗箱数	3本/株	30×16cm	80%	25g	100g/箱	20箱	30×18cm	80%	25g	100g/箱	18箱	4本/株	30×16cm	80%	25g	100g/箱	27箱	30×18cm	80%	25g	100g/箱	24箱
一株植付本数	栽植密度 条間×株間	整苗率	籾 千粒重	乾籾 播種量	10a当たり 必要苗箱数																									
3本/株	30×16cm	80%	25g	100g/箱	20箱																									
	30×18cm	80%	25g	100g/箱	18箱																									
4本/株	30×16cm	80%	25g	100g/箱	27箱																									
	30×18cm	80%	25g	100g/箱	24箱																									
(3) 種子準備 床土等		稚苗移植栽培に準じる。																												
(4) 播種	播種量はやや少なめに	播種量は箱当たり乾籾100g程度とし、均一に播種する。その他は稚苗移植栽培に準じる。																												
(5) 育苗管理	均一催芽に留意する。温度管理に十分に注意する (第一葉鞘長を伸ばさない)	出芽は育苗器内の温度を30℃程度に保ち、出芽長0.3～0.5cm程度に出揃ったとき緑化に移す。緑化期は稚苗より低温で管理し、温度は日中20～25℃、夜間は15℃前後とし、昼間は温度の上がり過ぎないように換気する。硬化期は稚苗に準じるが、硬化期前半に10℃以下の低温に遭わないようにし、後半は出来るだけ外気にあて徒長させない。																												
(6) 追 肥	苗の葉色を見て行う	追肥の量は箱当たり窒素成分で1gとし、2葉期頃に硫安(製品5g/箱)を水に溶かして施用する。																												
4. 本 田 (1) 移 植	初期の活着促進を図る (深水管理)	平均気温が13℃以上となる時期とする(中部平坦地帯で4月上旬頃)。中苗は活着最低気温が稚苗より1℃程度高く、移植日前後の天候で活着や初期生育に影響があるので、できるかぎり穏やかな日に移植する。移植後低温や寒風の恐れのある場合は、深水にして保護する。																												
(2) 施 肥		稚苗移植栽培に準じる。生育が早くなるので、穂肥は生育診断により判断し、遅れないように作業を進める。																												
(3) 水管理		(1) 稚苗に準じるが、早進化のためには、回し水や深水管理など水温を高めるよう努める。また、穂孕期頃に最低気温17℃以下になることが予想される時は、深水管理によって幼穂を保護する。 (2) 中干しは十分行い、地耐力をつけておく。																												
(4) 病虫害防除		稚苗に準じるが、生育が早くなるので、時期を失ないように防除する。																												
(5) 収獲・乾燥 ・調製	適期刈取りを励行する	稚苗に準じるが、適期収獲に努める。																												